

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.10 No.4

河北潟に市民による「冬みず田んぼ」ができました



冬期湛水水田「冬みず田んぼ」の脇に立つ看板

河北潟を望む津幡町太田の水田の一枚に、越冬中の野鳥や水生生物のための冬季湛水水田が生まれました。河北潟湖沼研究所も参加する河北潟自然再生協議会では、河北潟で冬期湛水水田(越冬する水鳥などのために冬期間水を張った田んぼ - 「冬みず田んぼ」などと呼ばれています -)の実施を呼びかけていますが、この呼びかけに答えたある兼業農家の方が、ご自身の水田で始めたものです。

自ら、冬期湛水水田を実行していることを示す看板も製作され、現在、実施田の脇に設置されています。看板には、ハクチョウとオタマジャクシのイラストとともに、「人と自然に良い冬期湛水水田を試しています」と書かれています。期待される効果として、雑草の抑制や良い土ができること、野鳥のねぐらとなることなどが説明されています。(関連記事3P)

河北潟の沿岸を通って行った人々



カコちゅん かほくがた ショウくん
メルドリン
おかのこ3み



上杉謙信(うえずぎ けんしん・1530 ~ 1578)

越中を制圧した謙信は、天正四年(1576)織田信長と戦っていた石山本願寺と和を講じた。この結果、加賀の一向一揆勢も本願寺の指導によって謙信と和睦し、南から圧迫してくる信長の脅威に備えようとしていた。謙信は加賀の一向一揆勢の姿勢がはっきりすると、俱利伽羅峠を越えて津幡を経て七尾城を囲んだ。この時は、城の抵抗が強く謙信はいったん兵を撤収して春日山へ帰った。翌、天正五年七月、謙信は再び七尾城を攻撃した。城内には疫病が蔓延し、城主畠山義春も五歳で夭折。内部の裏切りもあって、九月十五日、ついに落城。九月末、信長は五万の軍勢を引き連れ手取川を渡り北上。一方、謙信も三万の軍勢で七尾城を発ち金沢に入り、東茶臼山(卯辰山のこと)に陣を敷いた。

七尾城救援にきた信長は陥落の報を聞き、軍を安土へ帰したが、部下の柴田勝家と戦った謙信は手取川近くで一方的にこれを打ち破った。信長軍が謙信と戦ったのはこの一度だけである。この勝利は上杉方の記録にあるが、織田方の記録には無い。河北郡誌(大正9年11月発行)俱利伽羅・手向神社の項に「天正十年上杉謙信越中に侵入せし時此地に來り、頼朝寄進の社殿に火を放ちしに・・・」とあるが、謙信は天正六年(1578)飲酒過多による脳溢血で死んでいる。

俱利伽羅長楽寺(現不動寺や津幡町竹橋の俱利伽羅神社)関係の中世文書が一点も伝わっていないこともあるが、現存する仏像群はそれ以前のものが多数存する。兵火で全山炎上という事態があったかは不明。

謙信は数回、陸路でこの地方を通っている。

豊臣秀吉(とよとみ ひでよし・1536 ~ 1598)

天正十三年(1585)七月十七日の秀吉書状には「来る四日、越中表まで出馬の儀」を利家に報じている。(寸錦雜編)

同月秀吉は関白に昇り、姓を羽柴から豊臣に改めている。八月十八日、利家は金沢城に秀吉を出迎えたが、前日には長連龍(ちょうつらたつ)らの能登勢に十八日津幡到着を命じている(前田利家書状)。北徴遺文には八月一日、

本願寺文書には八月七日俱利伽羅峠に立馬とあるのでその頃通つたらしい。同二十九日には秀吉が越中呉羽山に布陣したため、佐々成政(さっさ なりまさ)は戦わずして降伏した。

秀吉は往路、復路とも当地方を通っている。

松尾芭蕉・曾良(まつお ばしょう1644 ~ 1694・そら)

元禄二年(1689)七月十五日(今の8月29日)「奥の細道」紀行の芭蕉・曾良師弟は高岡を主立し、埴生八幡(小矢部市)を拝し、俱利伽羅峠を越えた。その夕べ、金沢の小橋・京屋吉兵衛に宿をとった。

芭蕉師弟は残暑厳しい時期に俱利伽羅を越え、金沢に向かった。そのとき詠ったのが「あかあかと 日はつれなくも 秋の風」

【註】曾良・本名 河合曾良。芭蕉の弟子。「奥の細道」の同行者。

(河北潟歴史委員会 宮本眞晴)

冬期湛水水田の呼びかけにあたって

すでに全国では、冬期湛水田の先進的な取り組みが進められています。たとえば宮城県蕪栗沼では、自然耕（不耕起）栽培研究会の4つの農家により、合わせて6.0haの冬期湛水水田が取り組まれています。そこでは、水鳥の個体数調査も実施されていて、コハクチョウやマガンの飛来が確認されています。

この地での活動の中心となっているNPO法人蕪栗ぬまっこらぶの《蕪栗沼ホームページ》<http://www.jgoose.jp/wfrf/>に詳しく紹介されています。

その他、日本野鳥の会神奈川県支部が主体となって、休耕田に湛水しシギチドリを呼ぶ事業や、農林水産省農業技術研究センター鳥害研究室の茨城県霞ヶ浦周辺の水田で実験研究、山形県飯豊町黒沢地区で30aの水田に水を張る取り組みなどがおこなわれているようです（蕪栗沼HPより）。石川県でも加賀市鴨池観察館付近の水田約10haに冬期湛水した

ところ、コハクチョウ、マガン、ヒシクイ、カモ類などが採食に訪れていることが報告されています（鴨池通信No.113）。じつは、河北潟でもすでに、干拓地において2000年からカモによる大麦への食害を防ぐための、湛水水田実験がおこなわれています。

こうした事例を調べるうちに、河北潟でも冬期湛水水田を実現できたら素晴らしいと思うようになりました。そこで、河北潟の自然再生を願って設立された住民組織である河北潟自然再生協議会に相談しました。世話人会では積極的に受け止めていただき、会としても、住民や諸団体に呼びかけていこうということになりました。

わたしは、冬期湛水水田の成果が検証できるように、他地域の取り組みを参考に学びながら、継続的な生物のモニタリング調査をおこなっていきたいと思います。

（河北潟湖沼研究所生物委員会 川原奈苗）

冬の田んぼに水を張ることのメリット

1. 雑草の生育が抑えられる
 - ・土中の微生物、小動物の働きが活発化し稲藁を分解。
 - ・水が張られることで多くの雑草の発芽が抑制される。
2. 田んぼの土が肥やされる
 - ・ガンカモの飛来により田んぼに糞が落とされ、土が攪拌される。
3. ガンカモの豊かな餌場となる
 - ・田んぼの落ち穂やイトミミズなどの小動物が重要な餌となる。
 - ・水が張られるた田んぼは、安全な給餌場であり休息場所になる。
 - ・干拓地の麦・牧草地に飛来するカモ類の減少が期待される。
4. 減農薬・無農薬で安全な米づくりにつながる

冬も田んぼに水を!

冬の田んぼに水が張られると…

1. 雑草の生育が抑えられる
 - ・土中の微生物、小動物の働きが活発化し稲藁を分解。
 - ・水が張られることで多くの雑草の発芽が抑制される。
2. 田んぼの土が肥やされる
 - ・ガンカモの飛来により田んぼに糞が落とされ、土が攪拌される。
3. ガンカモの豊かな餌場として生かされる
 - ・ガンカモは田んぼの落ち穂や小動物を食べて暮らす。
 - ・水が張られるた田んぼは、ガンカモの安全な餌場・休息場所になる。
 - ・干拓地の麦・牧草地に飛来するカモ類の減少が期待される。

…減農薬・無農薬で安全な米づくりにつながる

休耕田にも水を張ろう!
 養分肥料が蓄積しなくなり、地中の微生物の働きがよくなります。

出典：新潟県新潟市ではコハクチドリの野生復帰を掲げ、先進的な取り組みがおこなわれています。減農薬では2003年度から、冬期湛水水田農法の実践農家に補助のための委託費が支払われています。実践農家が年々増えています。

呼びかけ：河北潟自然再生協議会

河北潟自然再生協議会例会で使用したレジュメから

冬期湛水水田を呼びかけるチラシ

お知らせ

第40回河北潟自然観察会を開催

河北潟クリーン作戦が実施されます

今年の「河北潟クリーン作戦」は、湖岸の草が伸びていない時期を選んで、4月17日(日)9:00から開始します。河北潟自然再生協議会に参加する団体や個人とともに、多くの団体やボランティア有志が、河北潟の湖岸7地点に分かれて実施します。河北潟湖沼研究所が担当する箇所は、内灘放水路付近と干拓地堤防の内灘寄りです。参加いただける方は、内灘橋(旧内灘大橋)西詰の広場にお集まり下さい。友の会の皆様をはじめ、多くの方のご協力をお願いいたします。

また今回は、同日企画として午後1:00より市民による、湖岸へのヤナギ粗朶堤防の設置とヤナギの植栽がおこなわれます。興味のある方は、競馬場裏手の土手の上にお集まり下さい。その他、河北潟沿岸土地改良区による大場排水機場の見学会が午前10:30よりおこなわれます。こちらは、馬事公苑裏手にお集まり下さい。参加自由です。

2月6日は、冬の観察会としては、風が強くなり、とても観察に適した天候となりました。今回は、冬鳥の観察がメインでしたが、今回、冬期湛水水田を実施していただくことになった農家の方にも参加いただき、水田の野鳥を中心に観察しました。

河北潟の冬の水田の野鳥の代表は、コハクチョウです。今回も津幡町の水田に約200羽が採餌したり、翼を休めているのを確認しました。

冬期湛水水田実施場所では、タゲリなどが確認されました。その他、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オジロワシなどの猛禽類の他に、通称パンダガラスの白黒のコクマルガラスがミヤマガラスの群れに混じって観察されました。初めて参加された御年輩の女性は、「とても素晴らしい時間を過ごせた」と感想を述べていました。



< 編集後記 >

2005年もいろいろな取り組みが始まり、河北潟に目を向ける市民の方々が増えてきたなと感じています。河北潟湖沼研究所も11年目に入りました。(T)

「かほくがた」 VOL.10 NO.4

2005年3月18日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会
〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL : 076-261-6951 FAX : 076-265-3435

もうすぐです。ゴミのない河北潟

河北潟 クリーン作戦

[第11回]

4月17日(日)

平ノ瓦水辺公園、旧内灘大橋、才田大橋、湖沼大橋対岸側
公園などを中心に、河北潟全体のクリーン作戦を展開しま
す。どなたでもご参加いただけます。

午前9:00~10:00(小雨決行)
場所:河北潟周辺(裏面参照)

<同時開催イベント>

- 大場排水機場見学会
河北潟沿岸の治水の取り組みを現地見
学します。お楽しみにご参加下さい。
期 間 午前10:30~
集 会 場所 大場排水機場(馬事公苑裏)
主 催 河北潟沿岸土地改良区
- 湖岸のグリーン作戦
みんなの手で湖の保護に、ヤナギの苗を
植えます。
期 間 午後1:00~
集 会 場所 競馬場裏側
主 催 河北潟自然再生協議会

主催: 河北潟自然再生協議会
協賛: 石川県民会連合会事務局
河北潟沿岸土地改良区
協力: 河北潟水質浄化連絡協議会
(金沢市、津幡町、内灘町、舟橋川町)

連絡先: 河北潟自然再生協議会事務局
〒920-0051 金沢市二口町八58
TEL : 076-261-6951 FAX : 076-265-3435
MAIL : hokoku_kahokugata@com11.com 宛先: 事務局